

令和7年度第1回 八尾市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会

議事概要

日 時：令和8年2月4日（水）午前10時00分～

場 所：八尾市役所 本館8階 第2委員会室

出席者：委 員 14名（欠席6名）

事務局 12名

開 会

次第1

あいさつ

河野部長より挨拶

次第2

案件（1）第4次八尾市地域福祉計画の推進及び取組み進捗状況について

<事務局から【資料1】第4次八尾市地域福祉計画 進捗状況 を説明>

<委員の意見・質問等>

【 会長 】

- ・各取り組みは一定の成果をあげているものの、基本目標2のアウトカム指標の値は下がっており、地域活動や市民活動への参加経験のある市民の割合を高めて、担い手不足をどのように解消するかが課題。

【 委員 】

- ・地区福祉委員会では、ふれあい喫茶や地域内清掃などを行っており、それらの活動から得た情報・課題は、社会が抱える課題でもあるので共有したいと思っており（個人情報の兼ね合いはあるものの）、地区福祉委員会は地域とつながりがある団体と改めて認識した。
- ・市営住宅の入居者から、1人暮らし高齢者が外に出る取り組みをしてはどうかという提案があり、グランドゴルフを開催することになった。
解散していた高齢クラブの立ち上げにも寄与し、現在39名が加わっており、朝の挨拶運動を週1回小中学校で行っており、非常に活気のある活動となっている。
場所の確保の部分では、青少年向けの公共施設を高齢クラブのグランドゴルフでは使え

なかつたりするので、福祉という点では、年齢等で分けずに使えるようにしてもらえればありがたい。

【 委員 】

・民生委員の充足率は、90%を超えている状況だが、40名ほど欠員が出ており、担い手の確保が難しい。昨年12月の改選で、団塊の世代の方が定年となり、多くの方が退任された。

民生委員が市や社協と連携して検討し、民生委員が活動しやすいように業務の見直しなどを行い、三者連携の好事例として大阪府で発表させていただいた。民生委員へのアンケートや役割の見直し（依頼事務の見直し・効率化など）を行い、市政だよりの特集記事を掲載して広報に力を入れるなど、担い手の確保の部分で協力することで、ここまでの充足率になったと感じている。

【 委員 】

・民生委員の充足率は、他市と比べてもかなり頑張っているという印象。

・社協ボランティアセンターが昨年5月に社会福祉会館に移転し、社協の内部連携がしやすくなり、ボランティアセンターの強化に取り組んだ（会館の貸館稼働率も高い）。

・ボランティア体験プログラムに学生が参加いただき、災害ボランティアの募集も1日で定員に達するなど、高齢化とばかり言われるが、タイミングとニーズが合えば、参加いただける若い世代の方もおられることが分かった。

【 委員 】

・ボランティアセンターが社会福祉会館に移転したことで良い方向に転じ、社協にしっかりと活動をサポートいただいております非常にありがたい。

・昨年10月に開催したボランティアフェスタは、700名ほどに参加いただき（民生委員や地域の作業所も参加）、就学前児童の参加も多かった。要約筆記や点訳の方が、熱心に参加いただいた。このフェスタでも、社協のサポートのおかげで大きなトラブルもなかった。

・担い手の確保は課題であり、1つのサークルがなくなることになっており、活動の継続について今後検討していく必要がある。

【 委員 】

・手話サークルの代表をしており、50名程の会員がいる。ボランティアセンターから連絡があり、社会福祉会館の老人福祉センターの利用者が手話・聾者について学びたいとお声かけいただき、手話への関心が高まっていることにうれしく思う。一方で、会員の減少が進んでおり、長期的に活動を継続することは難しい。

・地域で回覧板が回ってくる回数が減り、どのようなイベントなどが行われているかが十分に知らされていないため、参加者も減っている状況で、回覧板が一番の情報源と感じる。

<事務局から【資料2】第4次八尾市地域福祉計画 令和7年度における主な取り組みを説明>

<委員の意見・質問等>

【 委員 】

・事業実施にあたり、行政や福祉の方に非常に協力いただいている。
・重層的支援体制整備事業について、市民からの相談を受ける中で何かあればつなげる支援室へ相談させていただいている。認知症の方の消費者被害が非常に多い中で、ケアマネジャーやヘルパー等への情報共有をしていただきたい。
高齢者にとっては紙媒体での啓発は重要であるので、なくしてはいけないと感じている。

【 事務局 】

・認知症の方の消費者被害に関するケアマネジャー等への情報共有について、高齢介護課が配信しているメールマガジン等も活用いただけるので、今後連携していきたい。

【 委員 】

・認知症の方の消費者被害の啓発支援を行っていく必要性を改めて感じた。
・8050 問題が顕在化する中で、地域包括支援センターでも高齢分野だけでなく、保育や障害分野など様々な分野への支援が必要であり、社協に支援を求めたり横のつながりで対応しており、重層的支援体制整備事業の重要性も理解している。

【 委員 】

・青少年指導員と子ども会が一体となっており、35 の団体と一緒に会議をしているのは、府内でも非常に珍しく、事務局には感謝している。
・小学校5・6年生と中学生を対象に「ジュニアリーダー」の養成研修会を実施しており、関西福祉科学大学ボランティアサークルにも参加いただいているが、なかなか地域に根付いていないので、今後も広報などに取り組んでいく必要がある。
・紙媒体の広報が少なくなってから、イベントの参加者も少ないように感じており、紙媒体の広報は大切だが、市政だよりも小さく掲載しているだけでは不十分。

【 委員 】

・広報の手法はさまざまあるが、回覧板にしても見ていただける策が必要。
・町会加入率が5割を切る中で、回覧板もなかなか回っていかない状況で、住民ひとりひとりに伝わるまでは至っていない。行政からもらった情報は、自分が住む地域では、掲示板に貼るということを自分が行い、班長を担う方の負担軽減を考慮している。
・二次元コードで読み取るのは、若い世代はできるが、高齢者にとってはハードルが高く、紙媒体を望まれており、今が過渡期ではないかと感じる。

【 委員 】

・子ども会や一人暮らし高齢者の支援を行っているが、コロナ禍以降、高齢者の暮らしが激変しており、民生委員や福祉委員などと協力して高齢者を見守っていくことが重要。

子ども会では、地域住民とこどものかかわりが重要であると地域も学校も感じており、さまざまな取り組み（地域の防災に関する情報を学ぶなど）を行っている。

地域住民を新たに取り込むには、新たな企画（近隣の高校生との交流など）を考えて試みることも重要。

【 委員 】

・母子父子については、地域福祉計画ではあまり触れられていないが、母子父子はダブルワークなどで生計を維持されている方が多く、年1回の日帰り旅行はあるが、イベントを開催することは難しい。

・地域に母子父子家庭と知られたくないとして民生委員などの訪問を拒否される方も多く、団体役員で訪問対応することもある。社協のサポートに期待したい。

【 委員 】

・民生委員や町会長とケアマネジャーで顔合わせをし、関係性を構築しておくことが、高齢者の見守りに有効と思う。また、ケアマネジャーは担当外のことを知る余裕がない現状の中で、事業所内でそういった地域の役職者との関係づくりについて共有することも必要。

・ケアマネジャーが行っている業務が、職務の範疇を超えている場合でも放っておけないのでしてしまっている部分も多くあり、責任の所在も不明な中で悩みながらやっている。

【 委員 】

・大阪府内の社会福祉法人が連携して取り組む地域貢献事業があり、例えば、経済的な理由でエアコンの設置が困難な世帯などに対してエアコンの提供・設置支援を行っている。

【 事務局 】

・市でもエアコン設置に関する助成（未設置世帯など対象）を4月から申請受付予定で、今後市政だよりに掲載する。是非、周知啓発にもご協力いただきたい。

次第3

その他

【 事務局 】

・本分科会委員の任期が3月末で終了となるため、後日、各団体等への委員推薦依頼を送付させていただく。

閉 会